

郷土摂津

第74号

平成16年6月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の
石造文化財

石塔・蜂塚

(千里丘3丁目)

第3回

金剛院の中にあるこの石塔は蜂塚と言われています。寺伝では鎌倉時代の初期、この地に盗賊が出没し村人達を苦しめていました。村人達は困り果て、金剛院から盗賊がいなくなるよう本尊（薬師如来像）に祈願しました。すると本堂内から蜂が群れをなして飛び出して盗賊を追い出しました。以来、村は平和になり、その時に死んだ蜂を武具とともに埋めて供養したのが蜂塚と言われています。これより寺名を蜂熊山蜂前寺金剛院（はちくまやまぶうぜんじこんごういん）と改められました。

蜂塚には多くの石造品の残欠が見られます。層塔の石造相輪が残っており、層塔が建てられていた可能性を残します。基礎は宝篋印塔（ほうきょいんとう）の基壇である反花座で、塔身には四方仏（金剛界四仏）を配しています。その上に層塔の笠部の屋根がのります。屋根の反りからみて鎌倉時代のものと思われます。その上の宝珠と請花は別のものと思われます。



摂津歴史スポット刊行！

文化財紹介ポイント116か所、休憩ポイント18か所、トピック、コラムなどを掲載しています。摂津市に住む人も訪れる人も、巡って、感じて、考えて摂津市の歴史を再発見していただくためにこのマップを作成しました。

この地図は白黒の印刷物、カラーの電子出版物として刊行しております。電子出版物とは、印刷物をパソコン上で見れるようにしたもので、文字情報のほか図表や写真がレイアウトを崩すことなくそのまま再現されるものです。今回お知らせします刊行物はPDF（ポータブル・ドキュメント・フォーマット）と呼ばれる形式で、文書を見るためのソフト「Acrobat Reader・アクトバットリーダー」を用いて、インターネットを通じて誰でも見る事ができます。他にも「いにしえ通信」のバックナンバーや「摂津市域の歴史と昔の暮らし」なども見る事ができます。

【ダウンロードの方法】

摂津市ホームページを開きます。
(<http://www.city.settsu.osaka.jp/>)
担当各課のページをクリック
生涯学習課の項をクリック
それぞれの刊行物の項をクリック



石碑・顕彰札の紹介

明和池遺跡と昭和 62 年の発掘調査

顕彰札がある周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）明和池遺跡となっています。昭和 8 年（1933）庄屋 1 丁目にあった明和池の底土から弥生時代と古墳時代の土器が採集され、遺跡として知られるようになりました。昭和 62 年には大阪府教育委員会による大規模な発掘調査が実施され、7つの堆積から多くの遺構（柱穴・溝など）や遺物（土器・石器・木器）などが見つかりました。

明和池遺跡の集落は古墳時代の後期から営まれ、鎌倉時代から戦国時代にかけての中世の時代まで存続します。とくに戦国時代には大きな溝が条里制地割に沿って掘られ、耕地への用排水に使われたようです。

出土した遺物の大半は弥生時代から戦国時代にかけての土器ですが、その一部に当時としては高級品だった中国から輸入された青磁、北宋銭などが出土しています。また特筆すべき遺物は、平安時代のものと思われる石帯の飾り「丸鞆」（マルトモ）です。大きさは 3 × 4 cm。厚さ 8 mm。裏面に一対の穴が 3ヶ所あけられベルトにつけられるようになっています。この遺物は珍しく当時の郡衙クラスの役人がつけていたものと考えられています。現在、明和池遺跡及び周辺地域でも引き続き発掘調査を実施しており、遺跡の性格や範囲について解明されつつあります。今後の調査にもご期待ください。

昭和 62 年度の明和池遺跡出土遺物（40 × 60 cmのコンテナに換算して 75 箱）は、平成 15 年度末に大阪府教育委員会から本市へ保管変更されました。今後は摂津教育委員会において内業調査（遺物整理：洗浄 注記 復元 図化）を実施します。またその成果は展示会などを通じて広く公開していく予定です。

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘東 5 丁目 13

【設置年度】平成 11 年度改修



昭和 62 年発掘調査風景



石帯の飾り（丸鞆）写真左・表面 右・裏面



北宋銭・至道元宝

今月の埋もれた摂津市の歴史はお休みとします。